



知って防ごう！マダニ感染症

マダニとは？

- 人間や動物の血を栄養源として生きています
- 食品や寝具に発生する家ダニとは異なります
- サイズは、吸血前で3-4mm、吸血後は1cmを超える大きさに膨れます
吸血後にマダニに気づくということも少なくありません
ホクロのように見えます
- マダニは成長・産卵するために吸血し、春～秋に活発に活動します

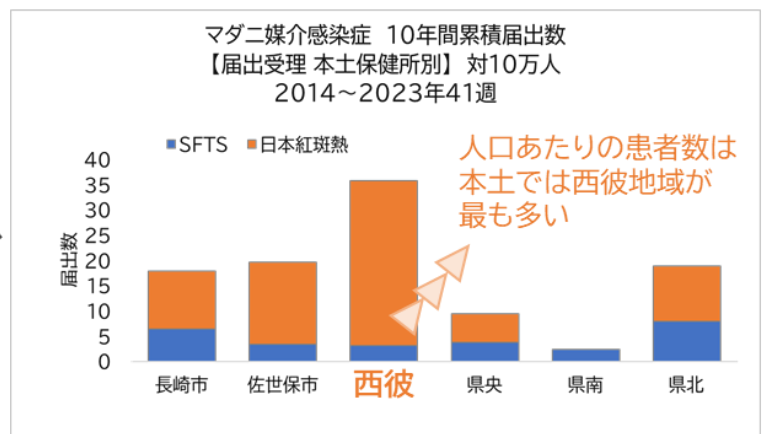


マダニ感染症とは？

- マダニは、人間等に悪さをする病原体を持っていることがあり、吸血時に、マダニの唾液から人間等に病原体がうつることがあります
- 人間が感染する病気として、長崎県では、「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」が報告されています

西彼地域の感染者の状況は？

- 西彼地域(西海市、長与町、時津町)は、**長崎県の本土地域で最も多く**マダニ感染症の患者が発生しています
- 特に、**日本紅斑熱の患者数が多い**状況です
- 日本紅斑熱の患者は、年中報告されていますが、特に**8～10月に多く**報告があります
- 日本紅斑熱の患者の傾向は、「**女性、高齢、無職**」に多く、感染場所(推定)は**田畑や自宅**、感染行動(推定)は**農作業や草刈り、ガーデニングや散歩**が多く報告されています



ダニのことを知って、 感染症を防ぎましょう

Q1 マダニはどこにいるの？

緑があればどこにでもいます！

動物が出没する環境に多く生息し、山や森、畑、公園、市街地周辺の草むらなどの背丈のある草葉の裏に潜んでいます。



Q2 マダニはどうやって移動するの？

マダニは翅を持たないため、飛ぶことができません。しかしながら、マダニは動物の血を吸わなければ生きていけないため、草葉の先や裏で待機し、動物が近くを通り過ぎたタイミングで移動します。

New

新しい知見では、「静電気」を利用して、マダニの近くを通過する動物に直接接触することなく付着できることがわかりました。静電気を起こしにくい素材の衣類を着用したり、静電気防止スプレーを使用することも効果がありそうです。

Q3 マダニに咬まれたら痛い？

痛みやかゆみなどの自覚症状がないことが多いです。吸着して数日から数週間かけて吸血します。吸血してマダニが大きくなってから気づくことが多いです。痛み等で気づくことができにくいいため、野外活動後は早めにシャワーや風呂で、体に付いたマダニを洗い落としましょう。



© 公益社団法人日本皮膚科学会
日本皮膚科学会ホームページより

Q4 マダニはどこに咬みつくの？

マダニは、首・手首・足首等の衣類の隙間から入り込み、皮膚の柔らかい部分まで移動します。全身どこも咬まれますが、特に“足(ひざ裏)、脇、下腹部(ヘソ)、陰部、頭皮、腕時計の下”は咬まれやすい部位です。



Q5 マダニ感染症は予防できる？

最も有効なのは、マダニに咬まれないこと！

STEP1 マダニに咬まれない対策

野外で作業する時は、肌の露出が少ない服装にしましょう。
適切な服装をしていても、付着したマダニが入り込むことがあります。
服の上や露出した皮膚に、虫よけスプレーを使用しましょう。



野外作業時のチェックポイント

- 1 肌の露出がないよう長袖、長ズボン、手袋、長靴、帽子等を着用している
- 2 服の材質は、マダニが付着しにくい素材を使用している
- 3 服の色は、マダニを見つけやすいよう明るくて薄い色を使用している
- 4 虫よけスプレーを服の上からかけ、露出した部分には直接塗布している
- 5 作業を終えた後、服にマダニが付着していないか目視で確認している
- 6 服に付着したマダニは、ガムテープ等を使って取り除いている
- 7 帰宅したら、なるべく早く入浴し、付着したマダニを洗い流している
- 8 畑等にイノシシ、アナグマ、アライグマ等の侵入防止用の柵を設置している

STEP2 咬んでいるマダニを見つけたら

なるべく早く**皮膚科で処置**を受けましょう



吸血しているマダニは、皮膚に頭を突っ込んで、セメント様物質を出して1週間程度しがみついているので、簡単には抜けません。
素人がピンセット等で体部を押して取ろうとすると、マダニが持つ病原体を含んだ液体が人間の体内に入り込む恐れやマダニの一部を取り残す恐れがあります。

STEP3 発熱や発疹等の症状が出たら

なるべく早く**内科で診察**を受けましょう

マダニに咬まれた後2週間程度は、体調の変化に注意してください。
重症化を防ぐために、早期受診・早期治療が重要です。



Q6 マダニ感染症ってどんな病気？

日本紅斑熱

1984年に四国で発見され、西日本で多く確認されていましたが、近年は日本中に拡大している感染症です

【潜伏期間】 2～10日

【症状】 頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症。発熱、発疹、刺し口が主要三徴候

【致命率】 1.1～4.1%（早期治療がなされても5%前後死亡するとの報告もある）

【治療】 テトラサイクリン系抗生剤

【病原体・感染源】 リケッチアジャポニカを保有しているマダニ

【伝搬様式】 ダニ媒介

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

日本で2013年に初めて確認した新しい感染症で、治療法がなく、致死率が高い感染症です

【潜伏期間】 6日～2週間

【症状】 発熱、消化器症状(食欲低下、嘔吐、下痢、腹痛)が多くみられる。その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語、皮下出血や下血等の出血症状など

【致死率】 6.3～30%

【治療】 対症的な方法のみ

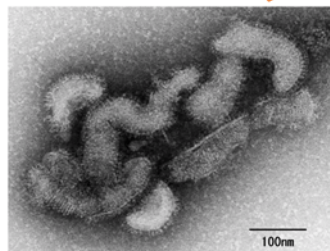
【病原体・感染源】 SFTSウイルスを保有しているマダニ

【伝搬様式】 ダニ媒介、医療現場においては血液を介したヒト-ヒト感染の報告あり

New

2023年6月、日本から世界で初めて、「オズウイルス」というウイルスのヒトの感染症例(死亡症例)が報告されました。このウイルスはマダニから分離されており、当症例もマダニに咬まれていました。野生動物やヒトのオズウイルスの感染歴がわかる調査において、すでにオズウイルスが日本の広い地域に分布している可能性があることが報告されました。その他、2020年には、北海道でエゾウイルスと呼ばれる新しいウイルスがマダニ感染症として発見されました。

マダニからは様々な病原体が見つかっており、人間にとっては未知なる感染症になるかもしれません。咬まれない対策が重要です。



オズウイルスの電子顕微鏡写真
国立感染症研究所ホームページより

Q7 ペットも予防したほうがよいの？

イヌやネコ等のペットもマダニ感染症に注意が必要です。

散歩中にペットに付着して家に持ち帰ることや、ペット自身が咬まれて感染することもあります。

家に入る前に、マダニが付着していないか確認し、動物用のくしやブラシでこまめにブラッシングしましょう。

咬んでいるマダニを見つけたら、無理にとろうとせず、動物病院に相談・受診しましょう。

